

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）  
「公衆衛生医師の人材育成に向けた好事例の横展開に向けた研究」  
令和4年度 分担研究報告書

「国立保健医療科学院での研修を修了した医師に対する公衆衛生医師の  
キャリアパスのアンケート調査について  
専門課程Ⅲ地域保健臨床研修専攻科修了生（卒後2年目研修医）向け」

町田宗仁（国立保健医療科学院・研究代表者）、名越究（島根大学医学部）、藤井仁（目白大学看護学部）、吉田穂波（神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科）、武智浩之（群馬県利根沼田保健福祉事務所）、宮園将哉（大阪府健康医療部保健医療室）、山本長史（北海道渡島総合振興局（渡島保健所兼八雲保健所））、横山勝教（香川県東讃保健福祉事務所）、杉山雄大（国立大学法人国立国際医療研究センター研究所糖尿病情報センター、筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野・研究協力者）

#### 研究要旨

【目的】行政機関で働く公衆衛生医師等のリクルートや、人材育成のあり方の検討に役立てるため、アンケート調査を行った。

#### 【方法】

平成27年度～令和4年度の専門課程Ⅲ地域保健臨床研修専攻科修了生（卒後2年目研修医）を対象と設定して、公衆衛生医師になる前に身に着けたいこと、公衆衛生医師の待遇に関する感想、公衆衛生医師募集のためにすべきこと、公衆衛生医師により関心を持ってもらうためにすべきことなどを質問した。

#### 【結果】

対象者93名のうち、調査時点でメールアドレスが有効だった66名中、35名が回答した（回答率53.1%）。公衆衛生医師になる前に身に着けたいこととして、臨床専門医の取得、MPH、疫学統計などが挙げられた。公衆衛生医師の待遇については概ね望ましいとの回答だった。公衆衛生医師募集のためにすべきことは保健所研修、大学での講義、現場公衆衛生医師からの情報提供などが挙げられた。公衆衛生医師により関心を持ってもらうためには、医学部時代や初期研修時に保健所研修を組み込む、行政機関で働く医師のイメージを持たせる、魅力を感じさせる必要がある、などが挙げられた。

【結論】公衆衛生医師の働くイメージを持たせるような講義や体験の機会、公衆衛生医師になるキャリアパスの実例の明示が、リクルート活動として求められる。入職後については、やりがいや更に感じられるよう、研修体制、日常的な指導体制を明示し、公衆衛生医師として成長できる環境が求められる。

## A. 研究目的

今般の新型コロナウイルス感染症のまん延は保健所を中心とした健康危機管理の重要性を浮き彫りにしたが、医療と行政の橋渡しを行う保健所等勤務の公衆衛生医師確保や人材育成については、これまで長年の懸案事項であった。「公衆衛生医師確保に向けた取組事例集」(2012年・厚労省)をもとに自治体が採用活動を展開しているものの、都道府県保健所の約1割が保健所長を兼務する状態が続いている。

本研究では、公衆衛生医師志望者の新規開拓、公衆衛生医師の定着の繋がる人材育成の在り方や環境を検討する上の基礎資料として、医学部を卒業して臨床研修中の若手医師や、公衆衛生医師としては若手の部類に入る医師に、公衆衛生業務に関する意識調査を行った。

## B. 研究方法

令和4年10月から11月にかけて、国立保健医療科学院(以下、科学院)の長期研修を修了、ないしは修了見込みとなった、専門課程Ⅲ地域保健臨床研修専攻科修了生(平成27年度～令和4年度の受講者)に対して、Webアンケート調査を行った。なお、自由記載欄については、テキストマイニングのためのKH Coder(<https://kncoder.net/>)を用いて、共起ネットワークとして図示化した。

専門課程Ⅲ地域保健臨床研修専攻科は、幅広い公衆衛生に関する分野の講義、課題演習、施設見学等現場研修(海外研修を含む)を通じて、将来、保健所勤務等、公衆衛生分野のキャリアを目指す医師を育成することを目的として開講しており、科学院が臨床研修協力施設の取り決めをしている基幹型臨床研修病院に所属する医師臨床研修2年目の研修医が、「地域医療」として選択受講する。

公衆衛生医師になる前に身に着けたいこと、公衆衛生医師の待遇に関する感想、公衆衛生医師募集のためにすべきこと、公衆衛生医師により関心を持ってもらうためにすべきことなどを質問した。

### <倫理的配慮>

国立保健医療科学院研究倫理審査委員会の承認を経て、実施した。

(承認番号 NIPH-IBRA # 12380)

## C. 研究結果

対象者93名のうち、調査時点でメールアドレスが有効だった66名中、35名が回答した(回答率53.1%)。

### 1. 属性

性別	
男性	18
女性	17

### 回答時の年齢

25～28歳	12
29～32歳	15
33～36歳	5
37～40歳	2
41～44歳	1
61～64歳	1

### 2. キャリアパスへの希望

問1 初期臨床研修を修了した時点で、公衆衛生医師になる道があることを、医学生時代に知っていましたか。

はい	29
いいえ	7

問1-1 はいの場合は、どのようなきっかけで知りましたか。(自由記載)









機関の調整」、「ワクチン接種」「感染拡大防止」「対策、知見」、「クラスター対応」、「医師の果たせる役割、活躍」などの傾向がみられた。概ね、研修生には理解されていたようであった（問8）。

コロナ禍における保健所の多忙ぶりにより、公衆衛生医師への興味が薄れるのではないかと懸念したところであるが、元々、公衆衛生自体に関心があるこの集団では、2/3程度が興味を持ったとのことであった。多忙な業務とは言え、その中で感じられた遣り甲斐、魅力について、関心があるグループには伝え続ける必要がある。興味を持った理由として、「意義、重要と感じる」、「国際パンデミック」が挙げられた反面、持たない理由として、「現場、政策、方針」、「医師、大変、感じる」といったキーワードが見られた。健康危機管理事案発生時は、若手に公衆衛生医師に関心を持っていただく機会となるが、仕事の意義、魅力をいかに伝えるかが、課題である（問9）。

公衆衛生医師募集のためにすべきことは保健所研修、大学での講義、現場公衆衛生医師からの情報提供などが挙げられた。公衆衛生医師により関心を持ってもらうためには、医学部時代や初期研修時に保健所研修を組み込む、行政機関で働く医師のイメージを持たせる、魅力を感じさせる必要がある、などが挙げられた（問10）。更に多くの医師、医学生に公衆衛生医師に関心を持っていただくためには、という問11では、「医学部、実習、保健所、研修、組み込む」、「行政機関、医師、イメージ」、「魅力、必要、感じる」、「情報提供」などが挙げられた。

行政医師として勤務する決断を後押しするためには、「キャリアパス」、「留学支援」、「公衆衛生専門医」、「非常勤、育児」、「働く裁量」などが見られた。若手を更に受け入れられるように、自治体の人材不

足の状況に拠り、可能なものから勤務条件やキャリアパス体制が整備されることを期待したい（問12）。

## E.結論

公衆衛生医師へのリクルート活動として求められる、公衆衛生医師の働くイメージを持たせるような講義や、体験の機会、実際に公衆衛生医師に就いたキャリアパス事例の明示が、更なる公衆衛生医師の勧誘には必要である。講義は、その機会として有効であると考えられた。入職後については、やりがいを感じられるよう、研修体制、日常的な指導體制を明示し、公衆衛生医師として成長できる環境が求められる。

## F.引用文献

令和元年度 地域保健総合推進事業 全国保健所長会協力事業 公衆衛生医師確保と育成に関する調査および実践事業報告書 令和2年3月

## G.研究発表

### 学会発表

町田宗仁、吉田穂波、武智智之、宮園将哉、平本恵子、高橋宗康. 「これでいい！？若手公衆衛生医師のキャリアと育て方」. 第81回日本公衆衛生学会総会シンポジウム 12. 2022年10月8日; 甲府.

### 論文発表

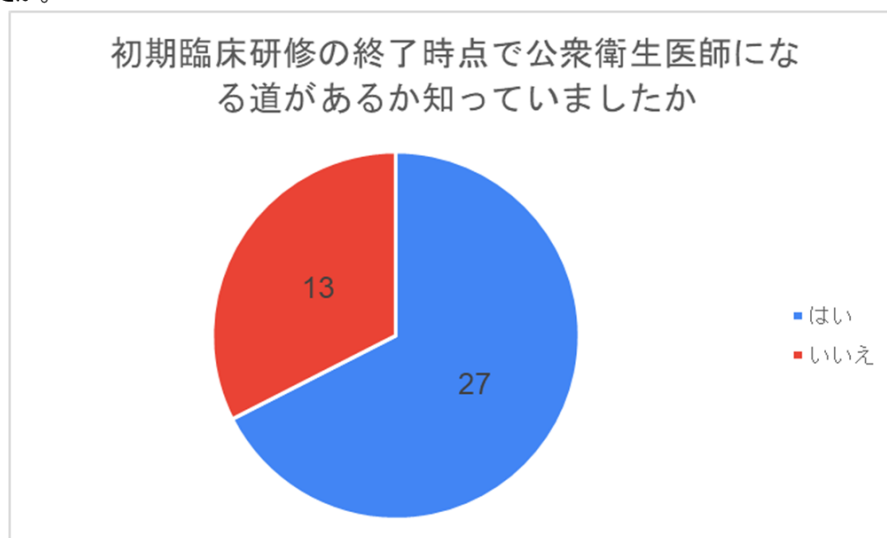
なし

## H.知的財産権の出願・登録状況

なし

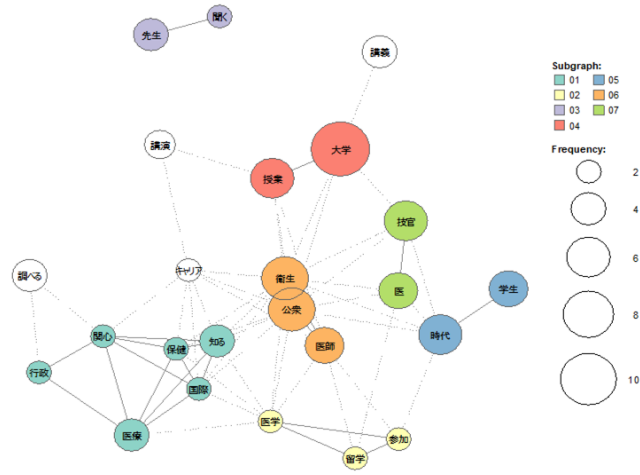
# 専門課程Ⅲ 地域保健臨床研修専攻科 卒後2年目研修医向け KH-coder 共起ネットワーク図・グラフ

問1 初期臨床研修終了時点で、公衆衛生医師になる道があることを、医学生時代に知っていましたか。

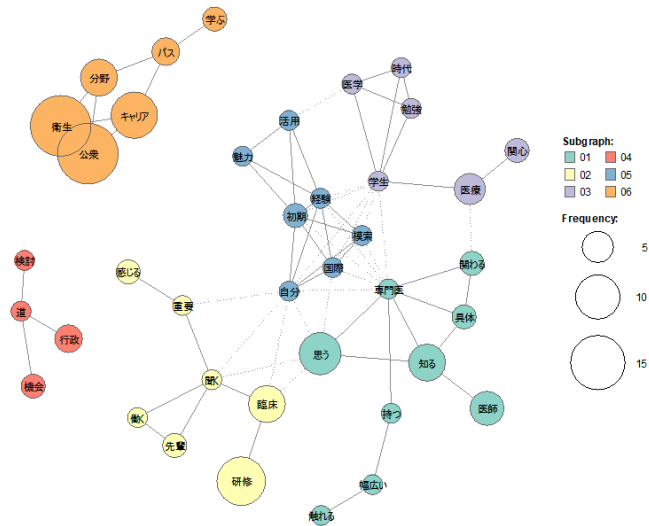




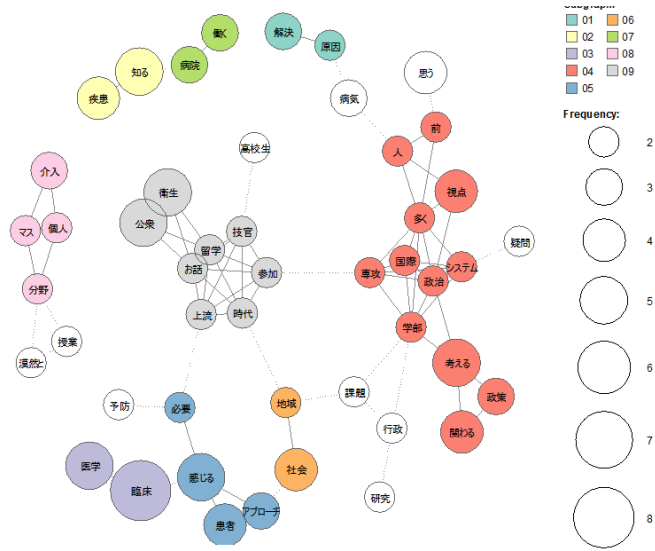
問1 初期臨床研修終了時点で、公衆衛生医師になる道があることを、医学生時代に知っていましたか。  
 →問1-1はいい場合は、どのようなきっかけで知りましたか。



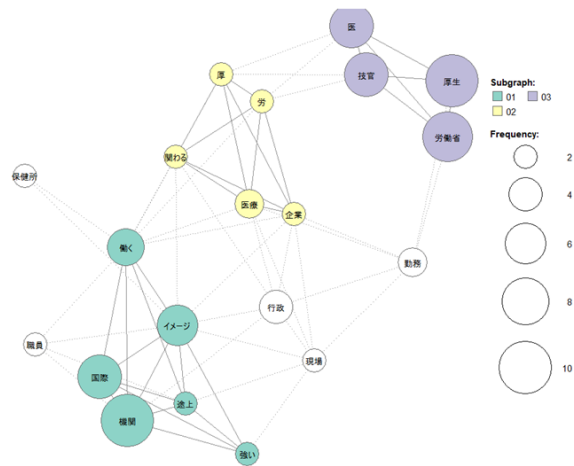
問2 この専攻科を応募された理由は、どのようなことだったでしょうか。



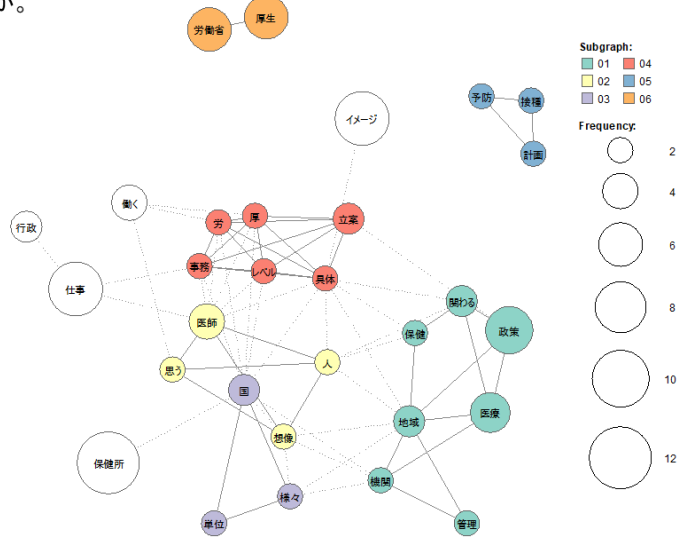
問3 公衆衛生分野に興味を持った理由は、どのようなことだったでしょうか。



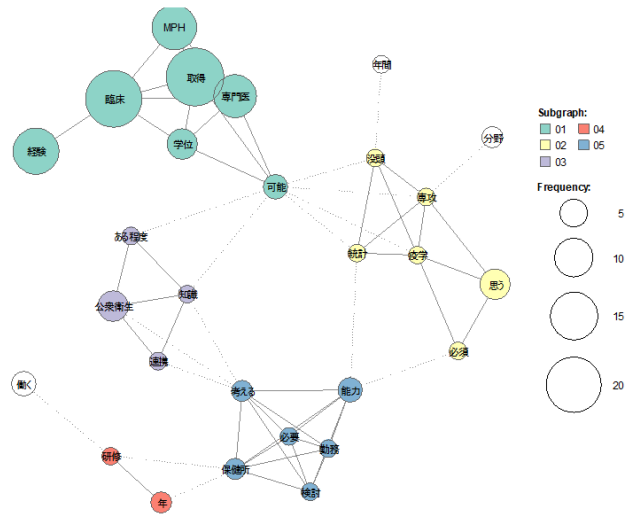
問4 学生のとときに公衆衛生の分野で働くことを具体的に想像したことがありますか。  
 →問4-1 はいの場合は、それはどのような場所で、どのような形態で、勤務することをイメージされましたか。



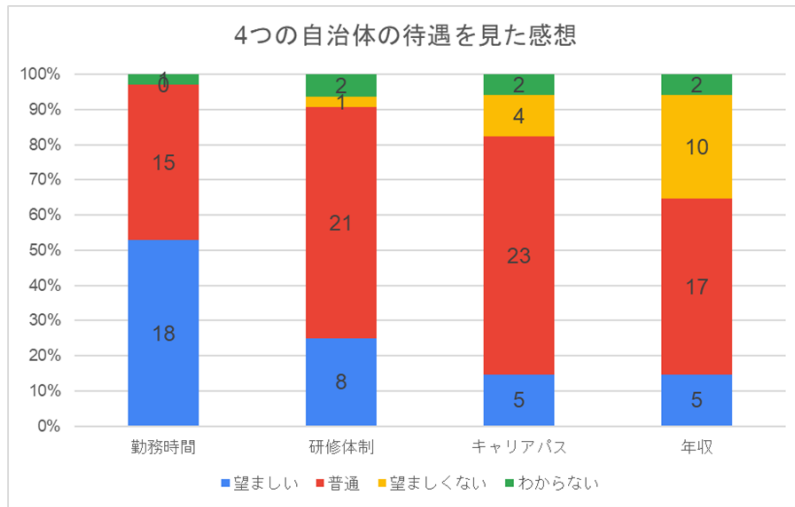
問5 地域保健臨床研修専攻科に入講する前は、公衆衛生医師がどのような仕事をしていると想像していましたか。



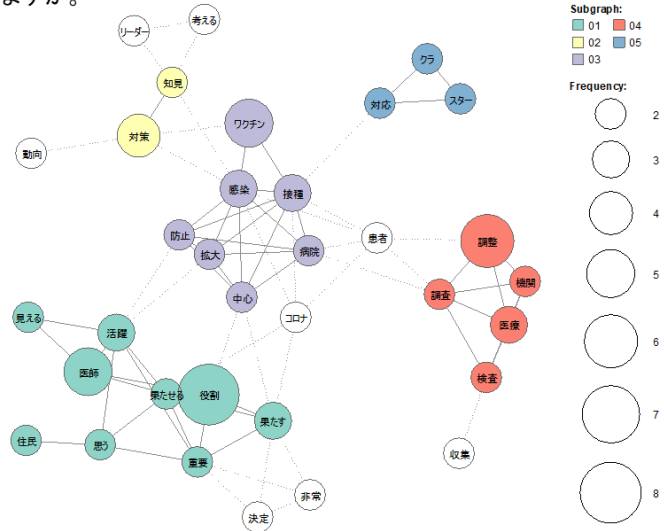
問6 仮にあなたが、都道府県本庁や保健所に勤務することになった場合、勤務を開始するまでにどのような能力を身につけておくと良い、どのような経験を積んでおくと良い、と考えますか。



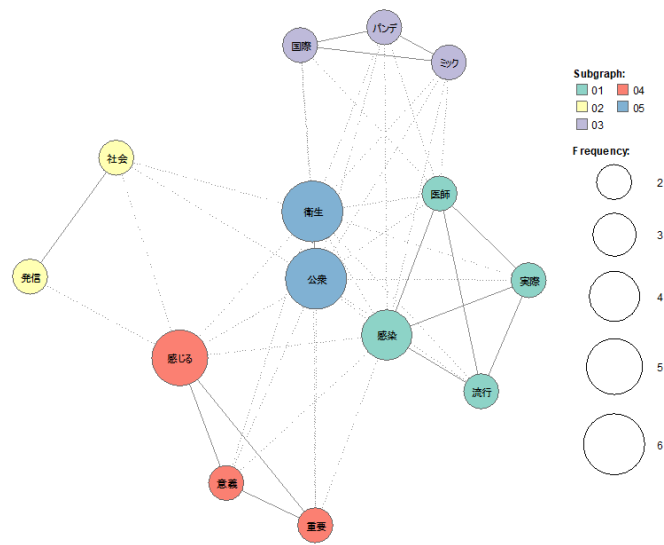
問7 就職後の処遇、勤務状況や研修体制を示す、以下の採用案内をご覧ください。これら4つの自治体の内容を見渡して、年収、勤務時間、キャリアパス、研修体制についてはどのように感じますか。



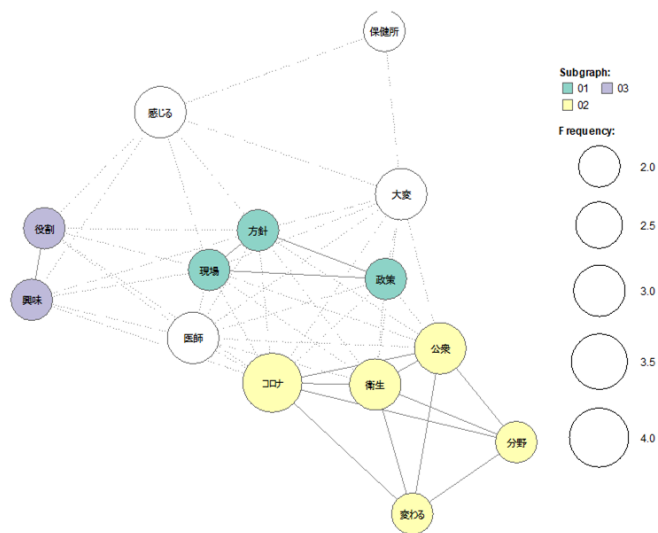
問8 新型コロナウイルス対策で、公衆衛生医師が保健所や都道府県庁本庁でどのような役割を果たしていると考えますか。



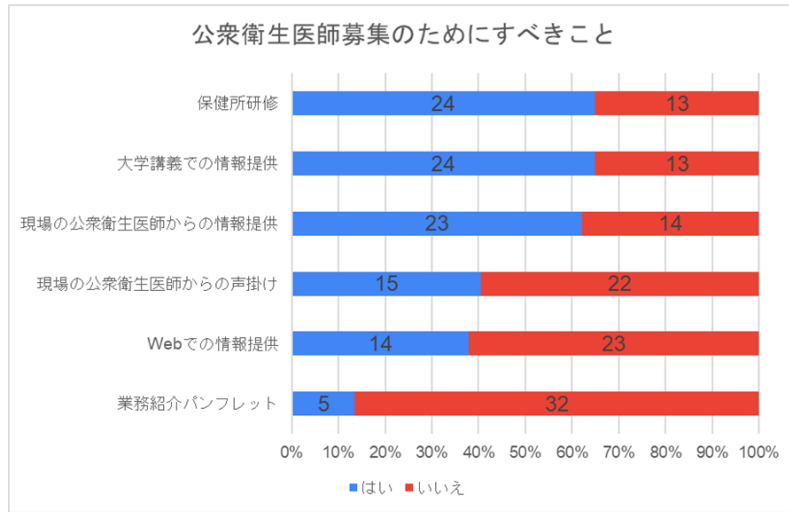
問9-1 コロナ禍を経て公衆衛生医師に「興味を持った」理由



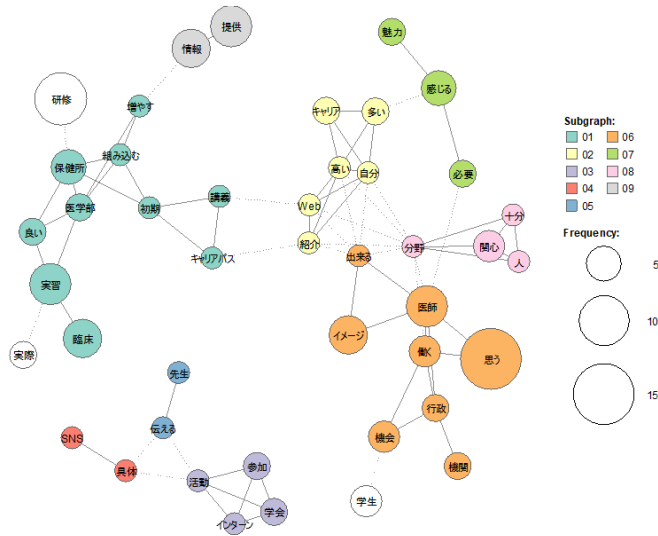
問9-2 コロナ禍を経て公衆衛生医師に「興味を持たない」理由



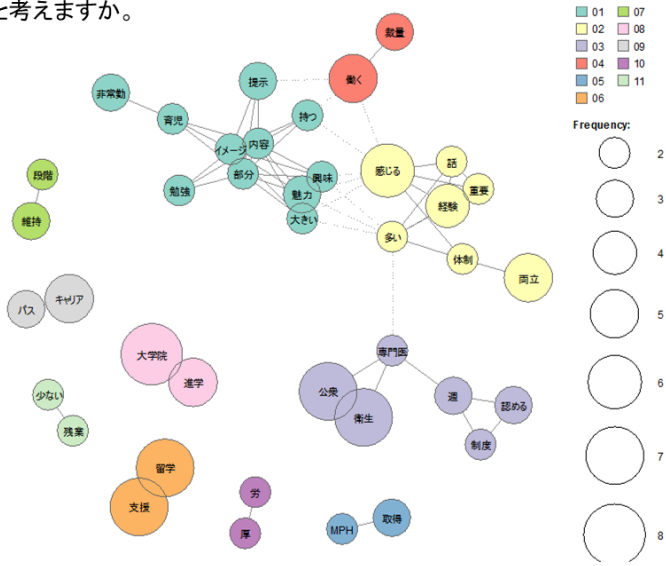
問10 公衆衛生分野の行政機関で働く医師を募集するために、以下の選択肢のうち、どのようなことをしたら良いと思いますか。



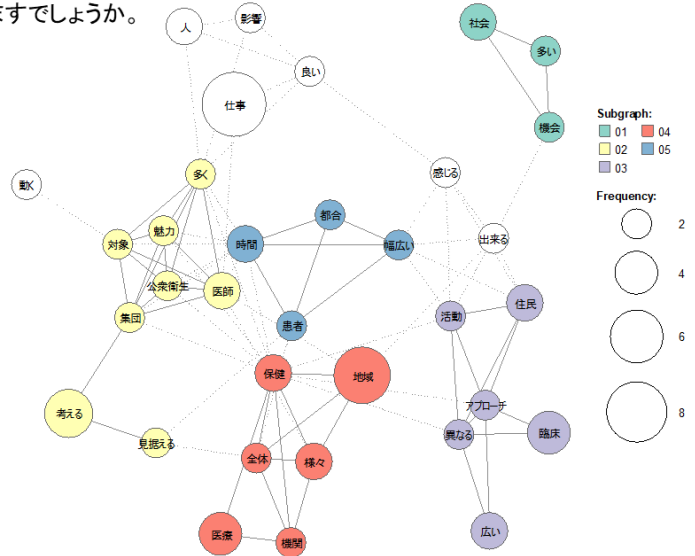
問11 公衆衛生分野の行政機関で働く医師が不足していると言われていますが、更に多くの医師、医学生に関心を持ってもらえるようにするためには、どのような方法が考えられるでしょうか。



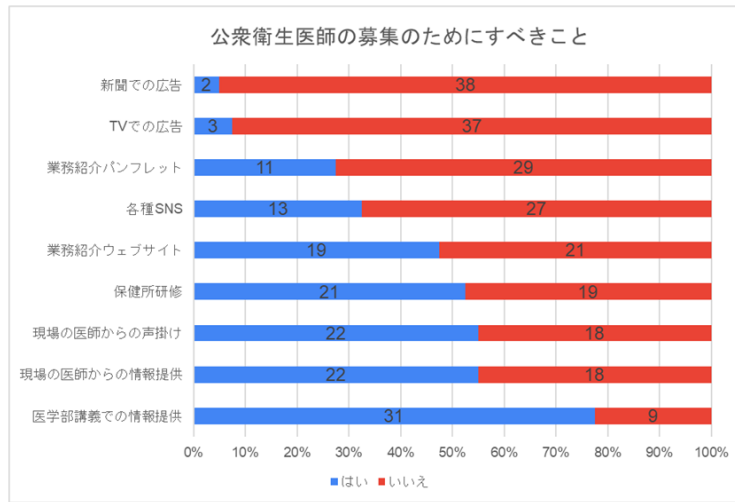
問12 行政医師として勤務すると決断するには、どのような要望が叶えられたり、配慮されたりすることを望ましいと考えますか。



問13 公衆衛生医師の不足が叫ばれて久しいですが、公衆衛生医師の仕事の魅力は何であると お考えになりますでしょうか。



問14 公衆衛生分野の行政機関で働く医師の更なる募集のために、どのようなことをしたら良いと思いますか。



問15 ご自身で、公衆衛生医師への勧誘をされたことはありますか。  
(ある場合は自由記載で、どのような対象に、どのような形で)

